

令和2年度 第1回三条市こども未来委員会会議録（概要）	
日 時	令和2年7月17日（金）午前10時～11時35分
場 所	三条市役所栄庁舎3階 大会議室
出席者	出席委員：真壁委員長、佐藤副委員長、石黒委員、浅井委員、近藤委員、堀委員、田巻委員、長谷部委員、宮島委員、斎藤委員 欠席委員：曾根委員、村田委員、土田委員、大橋委員 事務局：栗林教育部長、平岡子育て支援課長、小島課長補佐、梨本センター長、飯田総合支援係長、遠藤幼児・児童係長、坂井子育て支援係長、宮越主任 傍聴者：なし 報道機関：株式会社三條新聞社
委 員 会 内 容	
【次第】	
1 開 会	午前10時開会
2 挨拶	栗林教育部長より挨拶
3 委員及び事務局紹介	名簿に従い出席委員及び事務局が挨拶
4 委員長及び副委員長の選任について	委員長に真壁委員、副委員長に佐藤委員を選出
5 議 題	・令和元年度子育て支援推進状況報告書（「すまいる子ども・若者プラン」進捗状況）について （平岡子育て支援課長から説明） 報告に先立ち、三条市こども未来委員会の今後の運営について、資料に基づき説明 続いて、令和元年度子育て支援推進状況（「すまいる子ども・若者プラン」進捗状況）について、報告書に基づき説明 【質疑】 （堀委員） 4ページのプランの成果指標について、令和5年度目標値が90%とか80%とか、非常に高い意欲的な数字を設定していると感じた。その

中でも、5 子育てに幸せを感じている人の割合を、99%という、非常に攻めた数字を置いているように感じた。他の指標の数値は末尾が「0」や「5」となっており、ここだけ「99」という数字となっている理由はどのようなものか。

支援の必要な児童のためにさんさん児童クラブを作られたということだが、収容人数はどのくらいか。今のところ1か所だと思うが、今後、旧栄町とか旧下田村とか、地域的に分散させる計画があるのか。

また、発達支援コーディネーターという資格はどのようなものなのか。どのような人が発達支援コーディネーターになれるのか。

毎度の発言となるが、子ども医療費助成については新潟県内6市で、対象を高校生までとしているわけだが、三条市は中学生までということである。それでもこの間伸びてきてはいるが、なるべく早めに他の市町村と同じレベルに行ってもらいたいという希望がある。

(平岡課長)

さんさん児童クラブについては、放課後の預かりの場として現在の計画では定員16名で運営していく予定である。立ち上げ直後ということもあるが、本日時点で7名の方に利用いただいている。

発達支援コーディネーターについては、各保育所の保育士が基礎研修及び応用研修を受け、支援が必要な子を見極めるスキルを身に付けながら務めているところである。

三条市における医療費助成に対する考え方については、医療費の助成制度は全国のいずれの地域においても同一のサービスが享受される、いわゆるナショナルミニマムという考え方に則れば、本来的には国が取り組むべきものと捉えている。私共市町村においては、地域に合ったサービスを将来にわたって追及していくこと、これこそが私共の役割と捉えているところである。そうした中であっても、昨年度は改善を図りつつ医療費助成のサービスを向上させてきたところであるので、御理解いただきたい。

(小島課長補佐)

プランの成果指標の1つである「子育てに幸せを感じている人の割合」99%の設定理由については、前回第1期のプランにおいても99%の設定である。それをまだ達成していないということで、第2期においても同様の目標値としたところである。100%ではない理由としては、第1期の目標値設定において、現実的に考えて100%というのはなかなか難しいというところがあるなかで、目標としてはそこを目指すという意味で99%と設定したものと捉えている。

(佐藤副委員長)

三条市として目標をどのように捉えて、指標をどのように数値化し、何が目標であるか、データをどのようにとっているのか、私共市民にとっては、それが達成されることによって、三条市がこういうまちになって、何をイメージができるようになるのか、教えていただきたい。

(平岡課長)

私共が目指していくところというのは、あくまでも最終的には、プ

ランの目標に掲げたまちづくりである。具体的には、安心して子育てを楽しむことができ、子ども・若者が笑顔あふれるまちということである。それを測る指標としては、プランにも掲げた9項目となる。これはどちらかというと定性的な項目が多くなっている。これから5年間取組を進めていくにあたって、実際に私共が、何がどこまで進んできたのか、三条市の子育てを取り巻く環境が今どういう状況なのか、ということ客観的な数字をしっかりと押さえながら、進めてまいりたい、そして課題を整理してまいりたい、と考えているところであり、そのためにも今回新たにプロジェクトの成果指標ということで、項目数がかかなり多くなっているが、こういった具体的な客観的数値を整理して、毎年の報告とさせていただいているところである。結果的にこの数値が上がっていくということは、最終的に5年後にアンケート調査を実施したときに、プラン総体の成果指標としての9項目の数値が上がっているであろう、という仮定の下、取組を進めているところである。

(佐藤副委員長)

これだけのものを計画し、数値的に表すということはずごく大変なことだと思う。国の基準があったり、県の基準があったり、その中で三条市としては他市と比較してどこまで頑張っているのか、などということはわかるものなのか。

(平岡課長)

他市との比較として横並びに見たときにどうなのか、という見方をどう持つか、という御質問として捉えて御答弁申し上げますれば、先ほど堀委員にもお答えしたことにも通じると思う。やはり市町村はそれぞれ子育て環境、事情というのは異なっており、それぞれの市町村が求めていくべき子育て支援の姿というのは当然のごとく異なってくる。そうしたときに県内20市や全国市との比較をすることがどれほどの意義を持つのか、ということもある。一方で、委員御指摘のように、比べるとすれば、先ほど若干触れさせていただいた、医療費助成がどうか、そういう給付行政がどうなっているか、ということは比較の対象となろうかと思うが、私共三条市としてはそれよりもむしろ、地域に適った支援施策を将来にわたって持続的に形成していくこと、これが市町村の役割として認識をしているので、こういった指標を整理させていただいたところである。

(斎藤委員)

6ページの1番下の部分、保育士確保の推進について、公立保育所において11名確保したものの、待機児童対策のための前倒し雇用保育士が確保できなかったため、年度途中では9人の待機児童が生じた、とあるが、例年の新規採用保育士も含めた退職者のおおよその人数はどのくらいか。そこからこの採用人数が妥当なのかどうかということがわかると思う。

7ページのウ、男性の家事、子育て参加の促進のところで差し替えがあったが、差し替え前後で削除されている項目がある。それはどの

ような理由なのか。3か月健診のアンケート調査で、父親の育児参加について「よくやっている」と答える人の割合というのがあるが、これ自体は良いと思う。私の子どもは未満児だが、1歳、2歳とかになると、母親としてはもっと、普段の家事や育児等への参画、この辺が、本当は母親が望んでいるはず。私の代案として、3か月健診はもちろん、例えば2歳児健診、3歳児健診もあるわけだから、そこでのアンケート調査というのも実施すると、母親としての考え方と父親としての考え方の差異を埋めるきっかけにもなるのではないか。育休についても私は1か月半取得したが、それでも足りないと思っている。そのあたりの啓発をパパ手帳に載せるとか、そういうことも必要だと思う。

(小島課長補佐)

保育士の入庁者数については、平成26年度から令和元年度にかけては概ね3人から11人である。平均すると5、6人の保育士を採用していることになるが、ベビーブームの頃の保育士が大量に退職しているということもあり、そういった部分での、言い方は悪いが調整ということで、令和元年度については11人採用されたというところがある。

(平岡課長)

男性の家事、子育て参加の促進についての指標を定めるにあたっては、私共も非常に苦慮した。最終的に行き着いたのが、3か月健診のアンケート調査の中で、奥さんの方から旦那さんを見てよくやっていると感じている割合である。これは健診で毎回拾うものであり、一番端的に表れるであろう、ということで整理させていただいたところである。

大変申し訳ないことに今回差し替えが生じたわけであるが、差し替え前の資料に残っていた2項目目については、よく分解して調べてみると、育児に関する悩み、相談という項目ではあるが、母親自身の様々な課題も相当数含んでおり、これが男性の育児参加を端的に表すとは考えにくい、ということで差し替えさせていただいたところである。結果として1項目削除となったということで御理解いただきたい。

また、母親が、父親からの日常での育児参加を望んでいるはず、という御指摘の中で、アンケート調査を例えば1歳半健診とか3歳児健診とか、そういったところでの実施も視野に入れてはどうか、という御提案があったが、このアンケート調査は、3か月健診、1歳半健診、3歳児健診でも実施しているものであり、そうした数値も横目に見つつ進めてきた。ただ、1歳半や3歳となると、大きな動きはないものの微妙に数値が下がってくるケースもあり、そういった面も含めてしっかり押さえつつ、今後の男性の家事、子育て参加の促進の取組を進めてまいりたい。

(真壁委員長)

待機児童数について、主に首都圏で言われているような待機児童ではないと思う。年度当初がゼロであり、年度途中で転入とか働きたいという母親がいたときに、どうしても受入れの保育士が見つからない、ということで待機児童になるということだと思うので、ここは注意書

きとかを付けないと、三条市には待機児童がこれだけいるのかという感じになってしまう。この指数としては年度当初の人数でも良いのではないか。この度のコロナ騒ぎで例えば多くの方が地方に移動するようなことになった時には待機児童数が増加することになる。そうすると指標としてはどうなのかと思う。

見える化ということで数字に表されていて非常にすっきりしたと思うが、例えば児童クラブの利用率の母数とか、働く女性の就職率とかそういうところは、預けたい人が母数になっているのか全児童数なのか、就職したい人の中の何パーセントなのかとか、人数との関連はどのようなものなのか。これを見るとすごく女性を働かせたい、児童は預けさせたい、というふうに感じる。必ずしもそうではなく、家で見たいという方もいると思うが、その辺を教えてください。

(平岡課長)

委員長御指摘のとおり、年度当初の待機児童については、三条市ではゼロである。そして、お見込のとおりであるが、年度途中での転入や職場復帰等で預けたいということで発生してくるものが、ここに掲げている10月1日現在の待機児童である。この数値は国の調査におけるものであり、それを指標に掲げ、たとえ年度途中であっても待機児童が発生しないようにということで、三条市においては、年度当初からの前倒し雇用を行い、若干の上乗せをして保育士を採用しているので、引き続き取組を進めていく中では、10月1日現在でもゼロになるように進めてまいりたい。

(小島課長補佐)

児童クラブの利用率については、1年生から6年生までの全児童数に対して児童クラブの登録数が何人か、その割合というものになっている。児童クラブについては原則4年生までとなっているが、場合によっては5年生、6年生の子であってもお預かりすることがあるため、全児童数に占める登録者数という割合で出させていただいた。

(真壁委員長)

そうすると、目標値が25%になっているが、これよりは大勢いると思う。既に飽和状態というか、預けなくてもよい、というところがあるのではないかと思う。もし、アンケートを取るのであれば次期プランの時になるかと思うが、預けたいけど預けられないのか、預けなくてもいいのか、というところを調査できると、市民のニーズに沿った数字になると思う。

(平岡課長)

現在、希望されているお子さんは全て受け入れさせていただいている。引き続き委員長御指摘のとおりしっかりニーズを押しえつつ対応してまいりたい。

(堀委員)

11 ページの親子で楽しめる公園整備というところで、平成30年度から令和元年度で数値が倍増した原因が、ミズベリング等の施設が整ったためということだが、ミズベリングの利用状況を見てみると、市

	<p>外の方の利用が多いような気がする。これは他の公園にも当てはまると思う。私はたまにひめさゆり森林公園にも行くが、あちらもかなり混雑しており、市外の方の利用も多い。公園の施設等がどのように使われているのかというときはこの数値が指標として使われると思うが、三条市の子育てということで考えた場合は、この数値から三条市民の数を抽出しなければいけないのではないかと。</p> <p>(平岡課長)</p> <p>そもそもの指標については、取組をそのまま表す数値ではないという前提でお話をさせていただきたい。御指摘のとおり公園には市外からおいでいただいている方も多い。三条市の公園として市民の皆様を中心に御利用いただいている中では、この取組、施策を表すにあたっては、1つの参考数値になるものとして上げさせていただいているものであると御理解いただきたい。</p> <p>参考までに申し上げますと、10ページの子育て支援センター、子育て拠点施設においても、市外からの利用が多い。</p> <p>(長谷部委員)</p> <p>10ページの子育て支援センターについて、私の子どもがまだ幼稚園に入る前の事だったが、保育園に併設の子育て支援センターを利用しようとした際に、ちょうど講座が開催されており、その講座の予約をしていないと利用できないと言われたことが何回かあった。自宅から近いということでその子育て支援センターを利用していたが、そのようなことが続いたため、その後はあそぼってやすまいるランドを利用するようになった。子育て支援センターの規模等にもよるとは思うが、講座を実施していてもその脇で遊べるような、そんな利用ができれば良いと思う。</p> <p>(平岡課長)</p> <p>子育て支援センターや子育て拠点施設を御利用いただいている方々のニーズに合わせてしっかり対応していけるように、そういったことも含めて、今後の利用率の向上、利用者の増を目指してまいりたい。</p> <p>先ほどの育児休業の御質問に係る若干の補足だが、ENJOY! パパ手帳というものがあり、こちらにパパに役立つ情報コーナーというページがある。その中の育児休業という欄が非常に事務的で、どういう人が、どういうことが、という内容に尽きているため、この部分に育児休業の取得を勧めるような書き方というか、キャッチーな書き方を追加して今後改善させていただきたい。</p>
6 その他	次回開催時期や今後の予定について事務局から説明
7 閉会	午前 11 時 35 分閉会